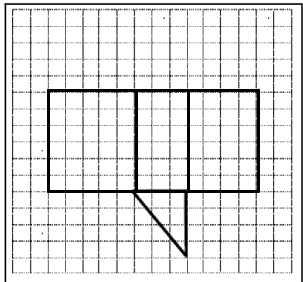
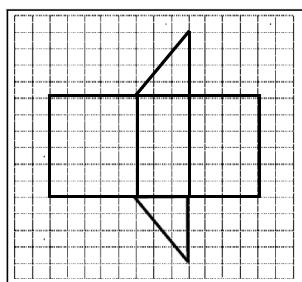
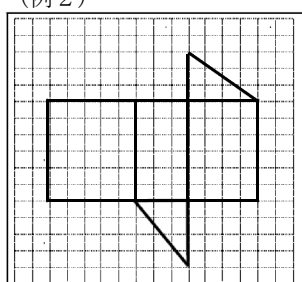
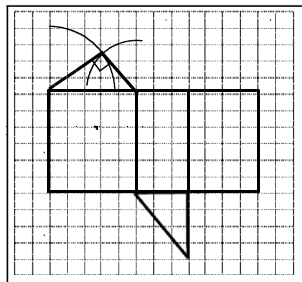
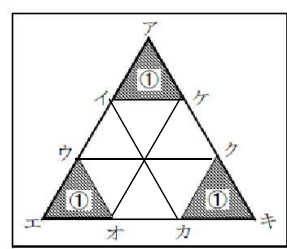


大問	中問	連番	観点	やや満足及び概ね満足できる解答状況	配点	十分満足できる解答状況	配点
1 20 点	(1)	①	技能			1. 3	5
	(2)	②	技能			$\frac{6}{5}$ または $1\frac{1}{5}$	5
	(3)	③	技能			$\frac{5}{8}$	5
	(4)	④	技能			$\frac{21}{20}$ または $1\frac{1}{20}$ または 1.05	5
2 10 点	(1)	⑤	知識			ウ	5
	(2)	⑥	知識	○ 【図】 2, 【式】 ㊥ のどちらかを書いている。	2	【図】 2, 【式】 ㊥ (完答)	5
3 10 点	(1)	⑦	技能	○ 答えは 80g と書いているが、式を書いていない。  ○ $2:1=\square:40$ または $\square:40=2:1$ 等の求める式を書いているが、答えまで書いていない。	2  3	○ 比を使って考えている。  <div style="text-align: center;"> <math>\begin{array}{c} \text{×40} \\ \curvearrowright \\ 2:1=\square:40 \\ \curvearrowleft \\ \text{×40} \end{array}</math> </div> <p style="text-align: right;">等</p> $2 \times 40 = 80$ ( $40 \times 2 = 80$ も可) <div style="text-align: right;">答え 80g</div> ○ 割合(倍)を使って考えている。 白みその重さは、パン粉の重さの 2 倍だから、 $40 \times 2 = 80$ <div style="text-align: right;">答え 80g</div>	5
	(2)	⑧	考え	○ ウのみ書いている。  ○ 記号は間違っているが、小麦粉の重さの求め方と答えを書いている。  $250 \div 10 = 25$ $25 \times 6 = 150$ または $250 \times \frac{6}{10} = 150$ <div style="text-align: right;">答え 150g</div> <div style="text-align: center;"> <math>\begin{array}{c} \text{×25} \\ \curvearrowright \\ 6:10=\square:250 \\ \curvearrowleft \\ \text{×25} \end{array}</math> </div> $6 \times 25 = 150$ <div style="text-align: right;">答え 150g</div>	2  3	○ 1 割あたりの重さを求めてから、小麦粉 6 割の重さを求める。 記号 ウ $250 \div 10 = 25$ $25 \times 6 = 150$ または $250 \times \frac{6}{10} = 150$ <div style="text-align: right;">答え 150g</div> ○ 比を使って考えている。 記号 ウ <div style="text-align: center;"> <math>\begin{array}{c} \text{×25} \\ \curvearrowright \\ 6:10=\square:250 \\ \curvearrowleft \\ \text{×25} \end{array}</math> </div> <p style="text-align: right;">等</p> $6 \times 25 = 150$ <div style="text-align: right;">答え 150g</div> ※ 記号ウを 2 点、小麦粉の重さの求め方を 3 点とする。	5

【授業改善の視点】

比の考え方をを用いて小麦粉の重さを考えるために、問題文を図に表す活動を積極的に位置付ける。また、図と関連させながら筋道立てて説明する活動を位置付ける等、表現する活動を工夫する。

大問	中問	連番	観点	やや満足及び概ね満足できる解答状況	配点	十分満足できる解答状況	配点
4	20 点	(1)	⑨ 知識			<ul style="list-style-type: none"> <li>・【底辺】ア（辺ABを○で囲んでいても可）</li> <li>・【高さ】エ</li> </ul> または、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・【底辺】イ（辺ACを○で囲んでいても可）</li> <li>・【高さ】オ</li> </ul>	5
		(2)	⑩ 技能	○ 側面をかいている。  ※ 3つの側面をかいていること。	1	(例1)  (例2)  (例3)  ※ コンパスで底面をかいている。	5
		(3)	⑪ 知識			エ	5
		(4)	⑫ 知識	○ ウかエのどちらかを書いている。 ※ ただし、正答でないものを書いていた場合は、2点減点とする。	2	ウ、エ（完答）	5
		(3)	⑬ 技能			120（度）	5
5	10 点	(2)	⑭ 考え	○ 9倍です。 わけも図もかいていない。 ----- ○ 9倍です。 わけは、書いていないが、図に線を入れている。	3  4	9倍です。そのわけは、図をかくと、9個合同な三角形がかけるからです。 ※ 図に線を入れて考えている。 	5

大問	中問	連番	観点	やや満足及び概ね満足できる解答状況	配点	十分満足できる解答状況	配点
6		15	関心	<p>○ ア, イ, ウ, エの記号だけ書いている。</p> <p>-----</p> <p>○ 求め方は書いているが, 選んだ記号と求め方が違う。</p> <p>※ 求め方は, 「十分満足できる解答状況」のように書いていること。</p>	1   3	<p>・選んだ記号 ア (求め方)  <math>860 \div 10 = 86</math>  <math>25 \times 86 = 2150</math>  <u>答え 2150g</u></p> <p>※ 表を書いて, 矢印などを使って, 表に示しても可</p> <p>・選んだ記号 イ (求め方1)  <math>25 \div 10 = 2.5</math>  <math>860 \times 2.5 = 2150</math>  <u>答え 2150g</u></p> <p>(求め方2)  <math>50 \div 20 = 2.5</math>  <math>860 \times 2.5 = 2150</math>  <u>答え 2150g</u></p> <p>・選んだ記号 ウ (求め方)  <math>25 \div 10 = 2.5</math> (<math>50 \div 20 = 2.5</math>)  <math>y = (\text{決まった数}) \times x</math> だから  <math>y = 2.5 \times 860</math>  <math>y = 2150</math>  <u>答え 2150g</u></p> <p>※ 比例の式 <math>y = (\text{決まった数}) \times x</math> の式に書き表していなくても可</p> <p>・選んだ記号 エ (求め方1)  <math>10 : 25 = 860 : \square</math>  <math>\square = 25 \times 86</math>  <math>\square = 2150</math>  <u>答え 2150g</u></p> <p>(求め方2)  <math>10 : 860 = 25 : \square</math>  <math>\square = 860 \times 2.5</math>  <math>\square = 2150</math>  <u>答え 2150g</u></p> <p>(求め方3)  <math>20 : 50 = 860 : \square</math>  <math>\square = 50 \times 43</math>  <math>\square = 2150</math>  <u>答え 2150g</u></p> <p>(求め方4)  <math>20 : 860 = 50 : \square</math>  <math>\square = 860 \times 2.5</math>  <math>\square = 2150</math>  <u>答え 2150g</u></p>	5

大問	中問	連番	観点	やや満足及び概ね満足できる解答状況	配点	十分満足できる解答状況	配点
7 25 点	(1)	⑩	考え	○ 2つの記号を書き、そのうちの1つに、イ、エのうちどちらかを書いている。 イ（2点）、エ（2点）とする。 ※ 1つの記号だけを書き、イ、エを書いている場合も、部分点を加える。ただし3つ以上の記号を書いている場合は不可とする。	2	イ、エ（完答）	5
	(2)	⑪	関心	○ 1つの円グラフを見て、気付いたことを書いている。 (例) ・ 2010年には、漁業で働く女性の割合は15%と <u>少ない</u> です。  等	各1	○ 2つの円グラフを比べて、気付いたことを2つ書いている。 (例) ・ 漁業で働く60才以上の男性の割合が、1965年は12%で、2010年は42%と、 <u>およそ3～4倍に増えています</u> 。	5
				○ 2つの円グラフを比べて、気付いたことを1つ書いている。	2	・ 漁業で働く女性の割合が、1965年は17%で、2010年は15%と、 <u>45年たってもほとんど変わりません</u> 。（ <u>少しだけ減っています</u> 。）  ・ 漁業で働く40～59才の男性の割合が、1965年も2010年も29%で、 <u>45年たっても変わりません</u> 。  等 ※ 2つの円グラフを比べて気付いたことが正しければ可 ※ アンダーライン部分が書かれていなくても、2つの円グラフの数値の変化について書いてあれば可 ※ 数値が書かれていなくても、下の例のように数値の変化を根拠に考察が書かれていれば可。 (例) 1965から2010年の45年間で漁業で働く人の高齢化が進んでいる。等	
	(3)	⑫	考え	○ 「正しくない」のみに○をつけている。 ----- ○ 「正しくない」に○をつけて、「総数が違うから」ということのみ書いていて、具体的な説明を書いていない。	2  3	・ 「正しくない」に○をつけて、1965年は、 $612000 \times 0.29 = 177480$ 人 2010年は、 $214000 \times 0.29 = 62060$ 人 このように、計算をすると、人数が違う。だから、たかしさんが言っていることは正しくない。  ・ 「正しくない」に○をつけて、1965年と2010年では、もともとの総数が違うので、割合は同じ29%でも、その総数に対して29%なので、たかしさんが言っていることは正しくない。等	5
<b>【授業改善の視点】</b> 割合が同じでも基準量が異なると比較量も異なる場面や割合が大きくなっても基準量によって比較量が小さくなる場面などで複数の比較量を比べる算数的活動を工夫する。また、根拠を明確にしてお互いの考えを説明したり、どのように修正すればよいのかを検討したりする活動を取り入れる等、言語活動を工夫する。							

平成25年度評価問題「ゆうチャレンジ」（熊本県学力調査） 小学校第6学年算数 解答及び配点一覧 No.5

大問	中問	連番	観点	やや満足及び概ね満足できる解答状況	配点	十分満足できる解答状況	配点
7 25 点	(4)	⑱	知識	○ 平均の重さ	2	1週間あたりの集めたあきカンの平均の重さ (1週間あたりの平均の重さも可) ※ 「1週間(あたり)」「平均の重さ」の 2つの言葉が入っていれば可	5
	(5)	㉔	考え	○ 答え(14週目)のみ書いている。 ○ 答えは、間違っているが、求め方は書いている。 $100 \div 7.2 = 13.888\cdots$	2 2	$100 \div 7.2 = 13.888\cdots$ だから、14週目に100kgを超える。  <u>答え 14週目</u>	5